

12/2

児童ら疾走 心地よい汗を流す

子どもたちの心身を健全に鍛えようと、宮川小学校が2日に「校内マラソン大会」を開催し、全校生9人が心地よい汗を流しました。

コースは同校を起終点に1・2年が2キロ、3年以上は宮川町牧戸までの往復3キロを走ります。大会では順位は競いません。児童たちがこの1年で培った力を発揮し、今年の記録を塗り替えるのが狙いです。

児童たちはゼッケンを胸に一齐にスタート。校庭から住宅街や田畑の間を走る道路に出ると、折り返し点を目指して元気よく走っていました。

3キロのコースで1番にゴールした5年の幅圭吾君は「1カ月前から毎日練習したお陰で、去年を55秒も上回ることができました」と笑顔を見せていました。

特レポ



12/4

人権の大切さを学ぶ

子どもたちに豊かな人権感覚を身に付けてもらおうと12月4日、古川西小学校で人権ペープサート（紙人形劇）の上演が行われ、同校の1年生児童41人が鑑賞しました。

このペープサートは、高山人権擁護委員協議会飛騨部会が主催し、人形制作から脚本・演技まですべて人権擁護委員の手作りで上演をしています。

この日は、新型コロナウイルス関連の人権侵害について、「コロナに感染しないようにがんばって感染予防をしているけれど、かかってしまうかもしれない。もし、友だちがコロナにかかってしまったらどうしますか？」との人権擁護委員からの問いに、児童らは「早く治るといいね」「大丈夫だよ」「元気になってね」との言葉を送ると元気に答えていました。



12/8

生涯学習に活用して

十六銀行が出資する公益財団法人「十六地域振興財団」から8日、市が実施している市民講座や「飛騨市民カレッジ」などの生涯学習推進事業に対し、事業助成金50万円をいただきました。

同カレッジは、幅広い分野の知識や技術を持つ専門家を講師に招き、来年度本格開校を予定。現在は「プレ開校」として複数の講座を開いており、11月には元ニュースキャスターの村尾信尚さんの講演会を行いました。

この日は市役所で助成金の贈呈感謝式が行われ、同財団の白木幸泰専務理事が都竹市長へ目録を手渡しました。

白木専務理事は「この助成が飛騨市の政策や事業、市民の皆さんの暮らしの役に立てばうれしい」と話されました。



12/8

チョウを通じて豊かな自然を知ってほしい

高山市在住のチョウ愛好家の鈴木俊文さんが8日、飛騨地域で目撃例のあるチョウ全142種類の自然の姿を自身で記録した図鑑「飛騨地方で記録された蝶類」を市へ寄贈していただきました。

この図鑑は、論文など公式の記録が残る種や飛騨地域で繁殖している種、分布が変わった種、県外から偶然飛来して見つかった種が収録されており、鈴木さんが県内外の野山で1種ずつ記録したものです。

この日は、「小中学生や図書館を利用する方に、チョウを通じて古里の豊かな自然を知ってほしい」と鈴木さんから教育長に図鑑10冊を手渡しました。

図鑑は市内小中学校と飛騨市図書館・神岡図書館に配置されます。



12/12 外国人実習生 日本の文化に触れる

市内で働く外国人技能実習生らに日本の文化を知ってもらおうと12日、外国人向けにつるし飾りの体験会を市役所で開催しました。

市内事業所では、ベトナムやインドネシアなどから多くの技能実習生らが訪れ、さまざまな業務に従事しています。市では、外国人に会社の垣根を越えて仲間の輪を広げてもらうため、毎年交流会を開催しています。

この日は、市内の愛好家団体「つるしかざり研究会」の皆さんに講師として協力していただき、市内の製造業など4社に勤務する外国人14人がつるし飾り作りに挑戦しました。

参加者は、針と糸を使って布地の形を整え、7つのパーツを作り、最後にパーツを組み合わせて球状のつるし飾りを完成させました。



12/12 クリスマスマーケットin神岡を開催 クリスマスの雰囲気を楽しむ

イルミネーションやおいしい食べ物などでクリスマスの雰囲気を楽しんでもらおうと「クリスマスマーケットin神岡」が12日、神岡町の本町防災公園で行われました。

このイベントは、コロナ禍でさまざまなイベントが中止となる中、年末に少しでも明るい気持ちになってもらおうと、飛騨市観光協会が開催したものです。

会場には、この日だけのあたたかい食べ物や飲み物、物販など12店舗が出展され、地元住民らなどでにぎわいました。

また、クリスマスイルミネーションも設置され、参加者らは一足早いクリスマスを楽しみました。



12/18 子どもたちへの長年の体験提供が称えられる

市内の小学生にリンゴの栽培を教えてきた黒内果樹園の天木政彦組合長が、子どもの地域活動への支援をたたえる「岐阜県地域子ども支援賞」を受賞され、18日に沖畑教育長から伝達表彰を受けました。

この賞は、子どもたちが地域で行うさまざまな活動を一生懸命に支え、地域にも貢献している、団体・個人に対して知事から表彰されるものです。

天木組合長は20年以上前から市内の小学校と特別支援学校からリンゴ栽培体験や収穫体験の依頼を受けており、毎年リンゴの摘果や袋掛けなどを体験する機会を用意し、子どもたちを指導してきました。

天木組合長は「果樹園として続けてきた取り組みが評価されてありがたい」と話されました。



12/19 自分だけの作品を描き、抽象表現を楽しむ

飛騨市美術館収蔵品展「何にみえる?何を感じる?～抽象美術へのいざない～」の開催を記念して19日、「抽象表現を楽しもう!」と題したワークショップを開催し、市内の絵画愛好者ら6人が抽象画に挑戦しました。

この日は、地元で活躍する抽象画専門の画家・横山明男さん(高山市)が筆のほかマスキングテープやストローなども使って、描き方の手本を示した後、参加者らは工夫を凝らして、彩り豊かな作品を仕上げました。

参加した布谷千里さん(古川町)と柳尾恭子さん(古川町)は画用紙に向かってペイントを含ませた筆を振って色を付けるなど、さまざまな技法にチャレンジし「自分だけの作品を作ることができてとても楽しかったです」と笑顔を見せていました。





飛騨市
Facebook 公式アカウント

飛騨市役所

まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式Facebookで配信中。



12/20

児童らがドローンに触れ楽しむ

小学生向けドローン体験会を開催

地域おこし協力隊でドローンの専門的な知識と経験を持つ山崎裕考さんによる市内小学生向けドローン体験会が20日、古川町公民館で行われました。

この体験会は、市内の子どもたちに最先端技術に触れてもらう機会を増やし、ドローンに興味を持ってもらうことを目的に開催したものです。

この日は市内小学生25人が参加し、山崎さんに教わりながらプログラミングや小型ドローンの操縦体験、FPVと呼ばれるドローン目線での迫力ある映像を見るなどして、ドローンに触れました。

児童らは、熱心に山崎さんの話を聞きながら、楽しくドローンについて学んでいました。



12/21

入院患者の安らぎの場所に

飛騨市民病院のデイルームが飛騨の家具で一新

飛騨市民病院の入院患者が集まる2階のデイルームが21日、地域住民でつくる「飛騨市民病院を守る会」からの寄付で、柏木工の協賛により飛騨の家具による素敵な空間に生まれ変わりました。

この日はデイルームの披露式が行われ、黒木嘉人病院長が同会と同社の代表者に感謝状を手渡しました。

黒木病院長は「飛騨の素晴らしい家具で素晴らしい癒しの空間が生まれた。病院としてできなかったことを守る会に助けられ実現できてうれしい」と感謝を述べました。同会の針田俊一会長は「デイルームが安らぎを与える温かい空間になった。会としてできる範囲で、地域の宝でもある病院の力になりたい」と話されました。



12/23

交通安全や地域貢献のために使用して

交通安全協会神岡支部が反射チョッキを神岡中学校へ贈呈

市交通安全協会神岡支部（吉村三治支部長）が12月23日、神岡中学校に反射材の付いた交通安全啓発用のチョッキ50着を贈りました。

このチョッキは、警察と高校生が連携して防犯や交通安全などの社会貢献活動を行う「MSリーダーズ」を務める生徒と保護者、同校職員らが交通安全週間などで着用するほか、同校が取り組んでいる「ふるさと健脚大会」でもランナーの安全確保のため利用するそうです。

この日は、支部のメンバーと飛騨警察署員ら4人が同校を訪れて「ドライバーや歩行者からよく見え、夏は涼しいメッシュ地のチョッキです」と上口淳校長に手渡しました。上口校長は「地域の方々のこうしたサポートは大変ありがたいです」と話していました。

特レポ



12/23

飛騨市のお米が金賞・特別優秀賞を受賞

第22回米・食味分析鑑定コンクール国際大会結果報告

静岡県駿東郡小山町で開催された第22回米・食味分析鑑定コンクール国際大会で金賞等を受賞した農家らが23日、市役所を訪れ都竹市長に受賞を報告しました。

この日は各部門で受賞した、飛騨市うまいお米研究会に加わる和仁農園の平田昌英さんとみつわ農園の永田政和さん、古田雄貴さん、稲越農業改良組合の宮本善秋さんらが市役所に訪れ、受賞の喜びを都竹市長に報告しました。

都竹市長は「これからもおいしいお米を作ってもらいたい」と激励の言葉を贈り、国際総合部門で金賞に輝いた平田さんは「農園スタッフみんなの力で6年連続で金賞を受賞することができた」と話しました。

